

1995.3.5

室内楽の午後

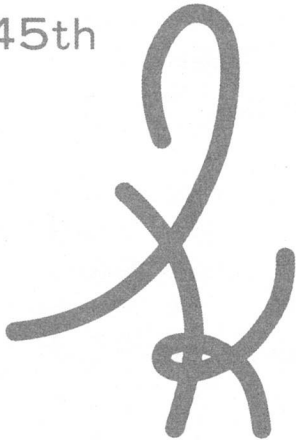
1995年

平成7年3月5日(日)

午後2時

市川市文化会館小ホール

245th



市川市教育委員会 市川交響楽団協会 共催

2.8.2001
プログラム

木管合奏

六重奏曲 作品71より L.V. ベートーヴェン
第1楽章、第3楽章、第4楽章 (1770—1827)

金管合奏

「アントニーとクレオパトラ」第1組曲より F. シュミット
“ポンペイの野営地のファンファーレ” (1870—1958)
葬送行進曲 E. グリーグ
(1843—1907)

————— 休 憩 —————

交響曲第25番 ト短調 作品183 W. A. モーツァルト
Symphony No25 G-moll KV183 Wolfgang Amadeus Mozart (1756—1791)
第1楽章 Allegro Con brio
第2楽章 Andante
第3楽章 Menuetto
第4楽章 Allegro

弦楽合奏「シンプル・シンフォニー」 B. ブリテン
Simple Symphony Benjamin Britten (1913—1976)
第1楽章 “Boisterous Bourree” Allegro ritmico
騒がしいブーレ
第2楽章 “Playful Pizzicato” Presto possibile
おどけたピッチカート
第3楽章 “Sentimental Saraband” Poco lento e Peante
感傷的なサラバンド
第4楽章 “Frolicsome Finale” Prestissimo con fuoco
ふざけた終曲

指 揮：石 本 由香利

管 弦 楽：市川交響楽団

本日の出演者

石本 由香利 (指揮)

1986年、東京音楽大学指揮科卒業。指揮を三石精一氏、理論を有馬礼子氏に師事。同大学研究科を経て、ベルリン芸術大学指揮科へ留学。指揮をH. M. ラーベンシュタイン教授、オペラ伴奏法をR. ヴォルフ教授に師事、1991年同大学を卒業。在学中よりベルリン交響楽団、ハレッシュェフィルハーモニー、ベルリン放送響、グライツ交響楽団などと共演。

現在、ベルリナーシュタットシュトライヒャー常任指揮者の傍ら、公立音楽学校のピアノ伴奏者として活動中。



木管合奏

クラリネット	多田 準也	半藤 嗣人
ファゴット	小島 厚	金坂 哲
ホルン	嶋村 恒夫	河野 和正

金管合奏

トランペット	安藤 宣明	新井本昌宏	一桙 泰一
ホルン	嶋村 恒夫	近藤 利昭	山本 恭子
	林田 朋子	藤井 茂司	
トロンボーン	藪崎 裕至	久保 昭	
	糸 秀樹	梶谷 妙絵	
チューバ	渡辺 鉄雅		
打楽器	都筑 裕	瀬川 順子	岩橋 正治

プリテン/シンプル・シンフォニー

モーツァルト/交響曲第25番

第1ヴァイオリン	鈴木 薫	竹内 甲	堂本 祐司	永田 匡
	二宮 伸雄	福原 祥子	松延 裕子	松山 和子
	横田富美子	横田佐貴絵	村田 康代	
第2ヴァイオリン	石本 恵理	岩田 徳子	亀井 玲子	鈴木麻衣子
	須永 恒雄	堤 哲児	根守 弘和	萩原紗和子
	深沢 武夫	溝田 範子	村上 葉子	
ヴィオラ	岩本 泰	内田 綾美	江田 愛	斎藤十一郎
	高橋 行継	竹内ひとみ	星 乘昭	渡部 玲子
	村上 賢一	横田 行雄	若林 繁	
チェロ	池田 寛之	角川 総一	倉沢 由和	沢田 恵子
	田頭 扶	沈 静珍	南明由美子	樋口 進
	福原 耕二			
コントラバス	池田 和正	菊池 克彦	鈴木 重則	村上 信乃
	山木 和広	李 隆子	宮本 彰	
オーボエ	荒井 淳	二村 直子		
ファゴット	金坂 哲	小島 厚		
ホルン	嶋村 恒夫	近藤 利昭	山本 恭子	藤井 茂司

木管合奏

六重奏曲 L. V. ベートーヴェン

木管合奏の楽器編成は、オーケストラで使用されるフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットに金管楽器のホルンが加わったものが多く、モーツァルトの時代の頃から宮庭貴族の食事や宴会の時の伴奏(BGM)として多くの曲が作られています。

ベートーヴェンも若い頃に、多くの木管合奏曲を作りましたが、その中で八重奏曲、ロンディーノ(いずれも20b、2Cl、2Fg、2Cor)と本日演奏する六重奏曲(2Cl、2Fg、2Cor)の3つの曲が現在でも木管合奏団の演奏会などでたびたびとりあげられています。

曲は序奏のついた第1楽章(アレグロ $\frac{3}{4}$ 拍子)、第2楽章(アダージョ $\frac{3}{4}$ 拍子)(本日は省略)、第3楽章(メヌエット $\frac{3}{4}$ 拍子)、第4楽章(ロンド)の4つの部分でできており、暖かみのある音色と楽しい雰囲気を感じることができます。(Cl. 時田 雄)

金管合奏

フローラン・シュミット(1870-1958)について

フランスではラベル、ドビュッシーと並んで近代フランス音楽の大家の1人に数えられるF・シュミットは日本では以外に演奏される機会の少ない作曲家である。シュミットというドイツ系の名前から判るように彼はフランスでもドイツ寄りのシラモンの地で生まれた。その後、1989年にパリ音楽院に入学し、マスネ、フォーレらに師事し、1900年にはローマ大賞を受賞した。

同時代の作曲家ストラビンスキーやシェーンベルクなどから比べると、極めて保守的な作風だが、独自の道を歩んだことからフランスではアンデパンダン(独立独歩の人)の1人に挙げられている。彼の作品は、彼のロマンティックな性格と古典主義的な管弦楽手法、フランスでは珍しい壮大なオーケストレーションを特長とし、代表的な管弦楽作品として「サロメの悲劇」、「詩編47」、「アントニーとクレオパトラ」、「オリアンヌと愛の王子」、セルゲイ・ターセビッキーの要望で作曲し自ら初演した「管弦楽とピアノの為の交響的協奏曲」等非常に多作家でもある。

またフランスで長い伝統を持つ〈野外音楽〉や〈軍楽〉への関心も高く、管弦楽曲「野外のための音楽」やギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団のために「ディオニソスの祭り」といった吹奏楽における不朽の名作を残している。

「アントニーとクレオパトラ」第1組曲より

ポンペイの野営地のファンファーレ(作品69、1920) F・シュミット

〈シェークスピアによる6つの交響的断章〉とサブタイトルのついた、管弦楽曲「アントニーとクレオパトラ」は、3曲ずつの2つの組曲からなりたっている。このファンファーレは第1組曲の2曲目にあたり、金管楽器と打楽器のみによって演奏される。この曲ではポンペイでの軍隊の野営の風景が、鮮やかな色彩感を持って印象的に描かれている。兵士達のファンファーレが夜のしじまを破り鳴り響く中、次第に神秘的で重々しい雰囲気が兵士達を包みこみ、また夜のしじまの中へとけ込んでいく。

葬送行進曲 E. グリーグ

エドヴァルド・グリーグ(EDVALD GRIEG) (1843-1907)は、ペールギュントや、ピアノ協奏曲で有名なノルウェーの作曲家である。この葬送行進曲はグリーグの親友の作曲家リカルド・ノルドローグを追悼して1866年にピアノ独奏曲として作曲されたが、後にグリーグは軍楽隊用に編曲し、更に1878年には金管と打楽器だけの編成に書き直した。この行進曲はグリーグ自身の葬儀でも演奏されている。重々しく深い悲しみに包まれた曲である。

(Tp. 安藤 宣明)

交響曲 第25番ト短調 K183 W. A. モーツァルト

本来は西洋音楽であるクラシックも、今では日本人の生活の中にすっかり定着している。街中の商店やデパートのBGM、CMなどに使われる音楽には、クラシックが思いのほか多い。そんなわけで本日御来場の皆様にも、「どこかで聞いたことはあるけど、曲名は知らないなあ…」というような曲が1つや2つあるはずである。しかもそれらの曲の作曲者は、往々にしてモーツァルトだったりする。「ひとまずはお幸せに」というキャッチフレーズの、某煙草CMで使われているBGMの正体は、何を隠そうこの交響曲第25番である)。

モーツァルトの交響曲のうち、短調なのは本日演奏する25番と、かの有名な40番の2曲のみである。両曲とも、どこことなく憂鬱な雰囲気漂わせてはいるが、決して何かを押しつけようとはしない。淡泊な中に、どこことなく寂しさがにじみ出ているといった印象を受ける。モーツァルトの音楽が広く親しまれているのも、そんな彼のさりげない音楽づくりに理由があるのかもしれない。

(Vc. 池田 寛之)

弦楽合奏「シンプル・シンフォニー」..... B. ブリテン

その国の特徴を表わすおもしろい例え話として、“アメリカ人の哲学者、ドイツ人のコメディアン、フランス人のビジネスマン、イギリス人の作曲家には一流の人物がない”というのを聞いたことがあります。そんな中の数少ない例外として、B. ブリテン(1913—1976)はイギリスのみならず、20世紀を代表する作曲家の1人です。

音楽の授業の教材にもよく使用される「青少年のための管弦楽入門」と並んで、本日演奏いたします「シンプル・シンフォニー」は、20歳の若さで書かれた彼の代表作であり、幼い頃から作曲を始めた彼の天才ぶりが発揮されています。この曲はその幼少時代(9～12歳)の習作的な作品からメロディーを選び、新たな作品としてまとめ直されたものです。題名には“シンフォニー”と付けられていますが、実際には弦楽合奏(弦楽四重奏でも演奏が可能なように楽譜に指示されています。)のために書かれており、第1楽章「騒がしいブーレ」、第2楽章「おどけたピッツィカート」、第3楽章「感傷的なサラバンド」、第4楽章「ふざけた終曲」という彼自身によって与えられた洒落た表題を持つ4つの楽章からできた、たいへん親しみやすい曲になっています。また、ブリテンは指揮者としても演奏、録音活動を行っており、当曲を含めたいくつかの自作品については、今日でも作曲者自身によるその貴重な演奏を楽しむことができます。

(Vn. 堂本 祐司)

【市響賛助会員】

赤松憲樹	飯島令治	片岡直公	杉沢順一	沼田武	三木晴	雄彦
東由葉行	飯田去田	岸野原英	田中中	野口政弘	宅岡地野	足雄
阿野良太郎	院内浮上	草栗古金	田中口	島原田	三光宮牧	知徹
蚊井健太	榎緒方	栗古金	谷竹中	萩原部	光宮牧	賢一
石井正介	上原隆智	古金	谷竹中	浜服羽	村岡上	和実
今井昭生	榎緒方	近後寒	泰泰高	福平樋	村岡上	治也
出野弥三	岡本英二	佐佐佐	高橋高	樋口富	山山山	峰直
岩瀬藤一	岡田利幸	佐佐佐	丹高津	福古星	山山山	文彦
伊藤賢二	小沢谷守	佐佐佐	丹高津	星井野	山山山	善敬
伊藤節三	岡野房佳	佐佐佐	丹高津	細松松	山山山	博一
岩淵勇	川崎下達	坂島新	塚島外	松松松	安湯吉	亮茂
飯島延庸	川地屋藤	島新島	塚島外	松松松	安湯吉	郎三
飯島茂裕	加嘉加	島新島	塚島外	松松松	安湯吉	四郎
井関葉川	金子野	島新島	塚島外	松松松	安湯吉	端
岩上純信		島新島	塚島外	松松松	安湯吉	下

市響・国際親善コンサート
ベルリン市民弦楽合奏団
交歓演奏会

平成7年4月22日 午後7時開演
市川市民会館ホール
(京成八幡駅北側)

ヘンデル/合奏協奏曲 作品6-9
グリーグ/ホルベルグ組曲
ワグナー/「ニュールンベルグの名歌手」前奏曲
R・アンダーソン/オーケストラ作品集

指揮 石本 由香利
演奏 ベルリン市民弦楽合奏団
市川交響楽団

〈入 場 無 料〉

■ お問い合わせ Tel0473-72-0258(市川交響楽団・横田)

第247回・市 響
「交 響 楽 の 午 後」

平成7年7月9日 午後2時開演
市川市文化会館大ホール

ワグナー/楽劇「神々のたそがれ」より
ジークフリートのラインへの旅立ち
ジークフリートの葬送行進曲
マーラー/交響曲第4番
“大いなる喜びへの讃歌”

指 揮 田久保 裕 一
(ルーマニア国際指揮者コンクール優勝)
ソプラノ 近 藤 千加枝
バイオリン 木佐貫 美 保(コンサートマスター)
演 奏 市川交響楽団

〈入 場 無 料〉

市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来43年の歩み
を続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙
をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、
平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う
文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感
を起させるシンフォニックな楽団の育成と、そ
の演奏活動の実践を容易ならしめるための社会
教育団体でありまして、利益を得る団体でも、
ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブ
でもありません。自分達の喜びを少しでも多く
の人に分け与えようとする奉仕団体でありまし
て、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在
であります、又、当協会は、市川交響楽団、市
川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニ
アオーケストラ、行徳混声合唱団の5団体によ
って組織されております。市川交響楽団は昭和
55年度のサントリー地域文化賞をサントリー文
化財団より受賞、協会は昭和58年11月に文部大
臣地域文化功労賞も受賞しました。

名誉会長 沼田 武
会 長 泰道 三八
理 事 長 村上 正治
理 事 飯島 延浩 奥山 浩
井関 裕義 岸本 英雄
古賀 正一 高橋 國雄
丹沢 章治 村岡 実
村上 信乃 三木 晴雄
茂木友一郎 平田 博永
横田 行雄
監 事 山口 重直 山崎 文彦
評 議 員 飯島 茂彰 光岡 知足
安田 敬一 他23名
顧 問 出光 昭介 白井日出男
岩瀬 良三 佐々木信次
山口 重直 山本 孝也 他23名
参 与 伊藤 一郎 伊藤 節 他110名
事務局長 星 乗昭

会 員 募 集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会員
に維持会員と賛助会員があります。

維持会員 年 5,000円

賛助会員 年 20,000円以上

当協会主催の行事には入場無料。

賛助会員は協会参与としてご協力をお願い致します。

団 員 募 集

入会金 1,000円 会費 月 2,000円

(市川混声・行徳混声 月 2,500円 学生 1,000円)
市響吹奏楽 月 1,500円 学生 1,000円)

各楽団を兼ねる事が出来る。

市川交響楽団 市川小学校音楽室(国道沿い)
練 習 市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎土曜日午後6時30分

市川交響吹奏楽 市川小学校音楽室(国道沿い)
団 練 習 及び市川公民館
市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎火・金曜日午後6時30分

市川混声合唱団 市川市文化会館練習室
練 習 本八幡南口より徒歩8分
行徳街道沿い
毎木曜日午後7時
技量は問題にしません。

市響ジュニアオ 平田小学校音楽室
ーケストラ練習 本八幡駅南口より西へ徒歩10分
京成菅野より6分
毎日曜日午前10時
連絡先 0473(37)1162 丸田

行徳混声合唱団 行徳公民館(行徳市庁舎3階)
練 習 東西線行徳駅より西側、
北へ徒歩6分
毎火曜日午後6時50分

事務局 市川市新田2-33-10

TEL 0473(78)1619

市川市 市民憲章

わたくしたちは 江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と その自然を愛し
由緒ある史跡と伝承をまもり育て 文教都市にふさわしく 教育と文化を重んじ
人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために つぎのことを定めます

1. きれいで 安全な より住みよいまちをつくります
 1. 親切で あたたかい 希望にみちたまちをつくります
 1. 教育と文化をそだて かおり高いまちをつくります
 1. 健康で 楽しく働く たくましいまちをつくります
 1. みんなの幸せを願い 豊かな福祉のまちをつくります

昭和52年11月3日制定